

計画システム論 (S A 専門科目)

=====

科目名:

計画システム論 (英文科目名: PlanningSystem)

2 単位 選択 建築学専攻 1 年 前期 講義

担当教官:

白石光昭 (居室: 建築学科棟 3 階) Email:shiraish@oyama-ct.ac.jp

授業目的:

建築設備などの新製品や新素材の開発プロジェクト, または新規の建築プロジェクト等に, 多くの学生が卒業後に関わっていくであろう。このようなプロジェクトでは, その出発点となるニーズあるいは問題点を整理し, プロジェクトの目的を明確化することが非常に重要である。また, その後に続く企画・計画段階においては, 問題点やニーズに対する具体的なアイデアを論理的に整理し, 誰もが理解し, 納得できるようにまとめることが重要になってくる。しかし, 現実のプロジェクトにおいて必ず通らなければならない, このようなプロセスを的確に整理し, プレゼンできる人は多くない。この理由は, 一つは論理的な思考訓練がなされていないこと, 具体的な手法を知らないことに原因がある。本講義では, 具体的な手法を紹介し, 実際に演習課題を行いながら, 論理的な思考の訓練を行っていく。

達成目標:

- 1 . K J 法の理解・習得
- 2 . 構造モデルの理解・習得

教科書:

「発想法」(中公新書, 川喜多二郎著)

参考書:

「システム工学入門」(共立出版, 寺野寿郎著), 「左脳デザインング」(海文堂, 森典彦編)

学習方法:

予習-授業時に学習する範囲についてのレポート作成が必要となるので, これが予習となる。
授業-授業時には必ずその時間に行う内容のレポートを提出し, その内容を各自が説明し, 参加者に理解できるように説明することを行う。その後に, 教官側から解説を行う。
復習-教科書中心でよいが, 授業中説明した点などを中心に見直しを行うと, 次回の授業の理解が深まる。

学習保証時間:

100 分[時間 / 週] × 15[週 / 前期] = < 25.0 時間 / 年 >

キーワード:

KJ 法, 構造モデル

授業内容:

- 1 . 論理的分析方法の重要性 2 週
- 2 . K J 法の解説及び演習 2 週

- 3 . K J 法の演習 2 週
- 4 . 構造モデルの解説 2 週
- 5 . 構造モデルの事例解説 2 週
- 6 . 構造モデルの演習 3 週
- 7 . まとめ 2 週

授業方法：

教科書および提出したレポートに沿って説明を行う。

カリキュラム中の位置づけ：

計画システム論で紹介する内容は，建築に限らず多くの分野にも参考となる概念であり，これから学んでいく各科目の基礎科目の一つである。

この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目

なし

この科目と同時に学ぶ関連科目

なし

この科目の後に学ぶ関連科目

なし

評価方法：

授業時に提出するレポート及び理解レベルにより評価する。なお、授業中の態度や欠課により減点する場合もある。

連絡事項：

特になし

学生へのメッセージ：

本講義で解説する内容は，建築に限らず，幅広く応用できものであり，物事を整理していくための基本的かつ重要な概念であるから，ぜひ理解して欲しい。

=====